

シェイク・モハメドの娘婿がドーピングにつながるエンデュランスのストレスについて語る

金曜日のロイヤル・ウィンザー・ホース・ショウは、エンデュランスにとって必要な、一服の清涼剤だった。なにしろこの競技めぐっては最近ネガティブな報道が続いたのだから。女王陛下も出席する中、アラブ首長国連邦は、4つの優勝のうち3つを獲得し、ドーピング検査で陽性の結果は出なかった・・・今のところはまだ。

by Simon Briggs

2013年5月14日

このニッチな馬術をご存じない方のために解説すると、エンデュランスは、1人のライダーが1頭の馬で最長100マイルものコースを完走する、という競技である。国際馬術連盟（FEI）がエンデュランスを”化学的操作”のホットスポットと位置づけたきたのは無理ないことだ。2010年から2012年までの間に、41例もの不正な改竄例が報告されているのだから。

スイス馬術連盟が持ち出した数字は、1990年代以降エンデュランスを支配するようになった中東諸国がこの問題の中心にいることを示唆している。アラブ首長国連邦所属の馬が、繰り返し例示されている。そのうちの1頭は、ドバイの首長、シェイク・モハメド・ビン・ラシッド・アル・マクトゥーム自身が騎乗していた馬なのだ。これらの小さなスキャンダルと、シェイク・モハメドのゴドルフィン厩舎におけるもっと大きな瓦解の間の関係は、簡単に描き出せる。

シェイク・モハメドの娘婿であるナセル・ビン・ハマド・アル・ハリファは、金曜日のライドに出場したが、彼の馬モロ・ファマイエフがレームになったため20マイルで棄権せざるを得なかった。ナセル王子（彼の父はバーレーンの王）がデイリー・テレグラフの取材に応じ、不正行為の告発の一切からシェイク・モハメドを擁護しつつも、ドーピングがエンデュランスにとって大きな問題であることを認めた。

「このことが起きた原因は、人間の競技におけるアスリートとまったく同じである。他のランナーや他の国を打ち負かしたいという気持ちから、見込み違いを始める。」とナセル王子は言った。「我々は、これが非常に長い距離であることを理解しているし、馬には走りやすくするようなものが必要だと理解している。しかし、それは合法的であるべきだ。エレクトロライトや砂糖のサプリメントのように。」

「我々は、もっと厳正に規律を守りたいと願っているので、これからよく研究するつもりである。」「バーレーンでは、あまりドーピングの機会はなかったから、FEIと定期的に連絡している。FEIにはすべての結果を送り、FEIはすべてのレースに立ち会っている。」

それでは、ゴドルフィンの15頭の馬が調教師マームード・アル・ザルーニによってステロイドを注射されたことについては、どうなのか？ナセル王子は謎めいた微笑を浮かべた。「シェイク・モハメドが非常に賢明で、十分に対処できることを私は信じている。」

「彼にとって、先週 1000 ギニーで優勝したことは大きな成功だった。たとえ一個人が間違った方法をとったとしても、それがシェイク・モハメドの全体的な方針でないことが、これで証明された。それはたった一人の人間の問題であり、シェイク・モハメドは彼に責任を取らせ、これを乗り越える必要がある。シェイク・モハメドが勝者として誇り高く歩いているところをテレビで見て、私は幸せだ。」

中東のホースマンの興隆を誰もが喜んでいるわけではない。エンデュランスは、かつては素朴で目立たないスポーツだった。とても資金不足な種目で、実際、1990 年の世界選手権では、イギリスの 4 人の主婦のチームが優勝、そのうちひとり純血種ではないエクスムーアポニーに乗っていた、というほどなのだ。約 700 頭のエンデュランス・ホースを所有するシェイク・モハメドがやってきた時、それはあたかも、地方のスタントカーレース（自動車破壊競争）にマクラーレン F1 チームが参戦してきたかのようだった。

多くの国は、湾岸諸国が手にしている資金や方法に不満を抱いている。ドーピング問題が絡んでくれば、特に。中東諸国の代表選手を閉めだしてレースをおこなう離脱組織を立ち上げる話さえある。

しかし一方では、ナセル王子が指摘するように、エンデュランスが彼の一族を惹きつけるもっともな理由があるのだ。「エンデュランスは、我々の伝統に、私の文化に最も近いスポーツである。歴史の話をしているのではない。祖父の話をしているのだ。祖父は馬を使用し、ラクダを使用して、全国土を旅していた。」

「エンデュランスは、アラブ諸国が建国する前に始まった。アメリカで生まれ、ここヨーロッパに来て、それから南アフリカ、オーストラリアに広がった。我々の馬は、他の人々のものと同じ種類だ。なぜなら海外から輸入しているからだ。違いは、トレーニングと、我々が馬に注ぎこむ努力の量であり、我々は馬を誰も達したことの無い次のレベルに引き上げる。馬をアスリートとして扱うというレベルである。」

「ライダーとして、騎手は健康でなければならない。」とナセル王子は付け加えた。彼は、サンドハースト陸軍士官学校で、イギリスのハリー王子の 2 年後輩である。最近、ナセル王子は初めてのオリンピック距離のトライアスロンで 2 時間 20 分という好タイムを記録した。「しかし、幅の広い、良きヨースマンである必要もある。これがこの競技の面白いところだ。チャンピオンの馬に乗ることもあれば、ビギナーの馬に乗ることもある、というところが。」

「いったんある数字やあるスピードに達すると、誰もがそこに近づいていたい、それを破りたいと望むから、多くの問題が起こる。そして、どんな馬でもそれができると考えてしまう。しかしそれは不可能だ。だから人々は、ただそのグループにいたいがためにドーピングを侵してしまう。非常に良質の馬ならば、馬だけでそれは可能なのに。素晴らしい馬は、内なる強さを持っている。」

ナセル王子と彼の親族は、このスポーツの大きな勢力となっている。先週テレグラフ紙がシェイク・モハメドのエンデュランス厩舎の周辺の問題を暴くまでは、ドバイ馬術クラブは、セットフォードのユーストン・パークでの年 1 度のライドを 4 回後援してきた。

今はスポンサーを降板し、バーレーンがウィンザーをサポートすることだけが残っている。もし、エンデュランスがクリーンだと馬術界が信じているなら、まだすべきことはたくさんある。 （以上）